

広報ちゅうざん

5月号

平成21年5月1日発行



もくじ

巻頭のあいさつ

二ページ

介護保険Q&A

三ページ

嗜好調査結果

四ページ

後遺症を越え

相棒がくれた生き甲斐

五ページ

平成二十二年三月入退院状況

六ページ

脱皮の時期「五月病回避へ」

理事長・院長 今村 義典

新入職員が入職され、早いものでオリエンテーションなどで、あつと言う間の一ヶ月だったと思います。新人は、仕事の取り組み、患者さんや先輩上司への気遣いなど緊張の連続かと考えられます。

一方、先輩の職員は、新人教育や指導でこちらも緊張の一ヶ月であったと思います。

双方とも気をつけないといけないのは、これからの時期であります。緊張が緩み始めると、さまざまな油断が生じる危険があります。絶対に起こしてはならないものに、医療事故があります。

この緊張と安堵の時期に、新人は、希望や夢と現実を最初に比較し、精神的な不安を感じることもあり、この神経症的状态を「五月病」と言います。

春は、あらゆる生き物が成長する時期です。爬虫類のように脱皮しながら成長していく生物やサナギから蝶に羽化するよう

な変化にとんだ脱皮の形もあります。

昔、恩師から学生（詰襟）から社会人（背広）になることは、サナギが蝶に変わるようなものだと言われたことがあります。サナギより蝶は、目立ちますので社会的責任の重さを指摘されたのです。

丁度、新人が脱皮して、飛び立つ時期かと思えます。

介護保険 Q & A

Q1.介護保険とは？

40歳以上の方[※]が利用できる制度です。
在宅生活をサポートしていきます。

Q2.費用はどれぐらい？

基本的には1割負担です。
残りの9割は保険で負担します。

Q3.どんなサービスが使えるの？

<家で使うサービス>

- ・ヘルパー:ヘルパーさんが家に訪問し、身体介護や生活援助を行う
(例:食事・排泄・入浴の世話、服薬通院の世話など)
- ・訪問リハビリ:自宅を訪問し、リハビリテーションを行います。

<通うサービス>

- ・デイケア:送迎付で日帰りでリハビリテーションが受けられます。

<その他のサービス>

- ・ショートステイ:介護老人福祉施設等に短期間入所して介護や機能訓練を行います。
- ・住宅改修費の支給:上限額を20万として改修費の9割を支給します。

他にもたくさん種類があります。



Q4.利用するには？

1. 役所・役場の介護保険窓口(介護福祉課等)に申請を行います。
2. 認定調査員が本人を訪ね、家族から話を聞き取ります。
3. 主治医が意見書を記入します。
4. 主治医の意見書と認定調査の結果で判定会議を行ない、結果を本人へ通知します。
5. 介護保険がおりたらケアプラン(サービスの計画表)をたててサービスを開始します。
(ケアプランの作成にはケアマネージャーが代行できます。)

申請から認定までの流れには1ヵ月ほど時間がかかります。

サービス利用内容には要件があります。

詳しい内容については、ケアマネージャーもしくは相談員まで声をおかけ下さい。

サービス利用で生き生きとした在宅生活を！



嗜好調査結果

栄養課 吉濱裕子

調査期間：平成21年4月6日～4月11日

対象者：入院患者及び通所リハ利用者

(コミュニケーションが可能な方)

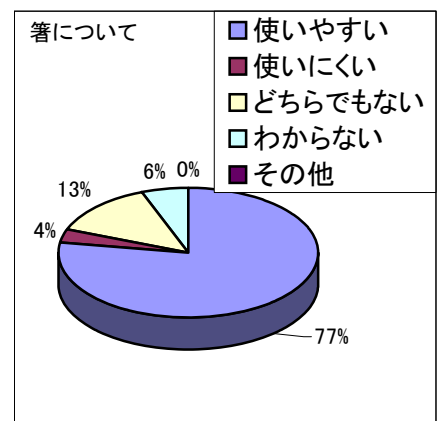
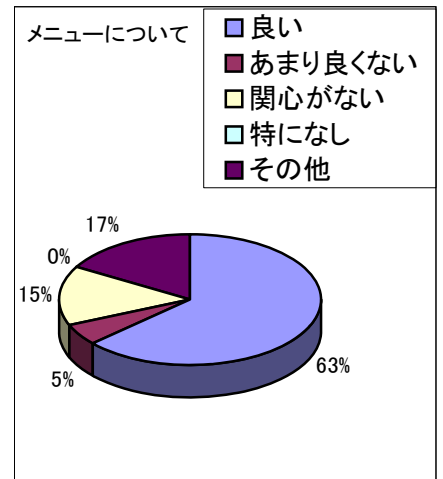
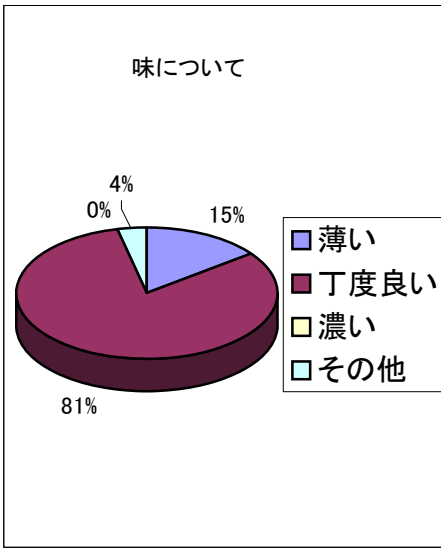
今回の嗜好調査で、味について丁度良いが81%、

薄い15%でした。薄いと答えた方の中には、減塩食に

ついて理解されている方もいました。今後も、減塩食への

理解を求めるとともに、調理法など減塩食の工夫に取り組んで行き

たいと思います。



メニューについては、あまり良くないと答えた方が5%で、「和え物が酸っぱすぎる」などの意見がありましたので、見直しの必要性があると考えています。

今回、平成21年3月にOTと相談し、麻痺がある方にも使いやすいようお箸を変えたため、新しいお箸についての質問も取り入れました。使いやすいという

意見が多く、スタッフからも「評判いいよ」との声が聞かれ、満足度は高い印象でした。

今回の嗜好調査の結果を活かし、献立作成・調理法・配膳方法などを検討し、より安全でおいしい食事が提供出来るよう取り組んでいきたいと思えます。

嗜好調査へのご協力ありがとうございました！

後遺症を超え 相棒がくれた生きがい

平成二十一年 一月一日 沖縄タイムス記載

脳出血の後遺症で、木下雅晴さんの左半身が麻痺したのは二〇〇五年二月、比嘉清順さんは二〇〇四年十一月に倒れ右半身の麻痺が残った。

木下さんは二十代のころ、出身地のうるま市平安座の青年会で、エイサーの地謡を務めていたが、仕事が多忙だったこともあり、いつも頭の片隅にあった三線を手にすることはほとんどなく、三十年近くが過ぎた。

「三線を弾きたい」という気持ちが強くなったのは「皮肉にも左手が動かなくなつてから」。リハビリに精を出すも、弾けるようになるまでには回復しなかった。突きつけられた現実の中で「後悔先に立たず」という言葉の重さをかみしめていた。

通っていた沖縄市の「ちゅうざん病院通所リハビリテーション」で二〇〇七年六月ごろ、一丁の三線を一緒に演奏する同じ境遇の男性二人に出会った。

「二人でも弾けるんだ」前向きな姿勢に感動した。そのうちの一人

が比嘉さんだった。

〇八年一月、当時の相棒が自立したため、三線が弾けずにいた比嘉さんに、木下さんから声をかけた。「一緒にやりませんか」不安はあつたが、三線を弾けるチャンスを逃したくなかつた。

練習は週二回で計二時間程度。比嘉さんも三線の教師の資格を取得するための勉強中に倒れ、失望と挫折感に悩まされたが、三線と相棒のおかげで立ち直つた経験がある。自分の乗り越えてきた壁だけに、思うように歌えず、弾けない木下さんの練習に、根気強く付き合つた。

病院内外のイベントに出演するたび、少しずつ自信を取り戻す二人。レパートリーも「恩納節」「辺野喜節」「四季口説」など次々と増え、十曲以上になった。二人の目標は、カチャーシーの曲を弾けるようになること。

「唐船ドリー」などテンポの速い曲が多く、タイミングを合わせるのが難しいが、片手に持った三線と、相棒が与えてくれる可能性を信じている。

「二人でならできると」。

(通所リハビリテーション相談窓口 師長 伊禮)

ちゅうざん病院の通所リハビリでは、利用者の生きがいをづくりの支援を積極的に行っています。

身体的にも精神的にも社会復帰出来た両者。今後も周りの利用者へ、又地域の応援して下さい。皆様へ感謝し、引き続き勇気と自信を与えてくれるでしょう。

平成二十一年度、介護保険報酬改正がありました。ちゅうざん通所リハビリもより活気的なリハビリ展開に取り組めます。今後とも効果的な支援と地域活動をより充実していこうと考えています。

通所リハビリテーションを利用するには、介護保険を利用されている方は、担当のケアマネージャーにご相談下さい。

五月の行事

家族会からのお知らせ

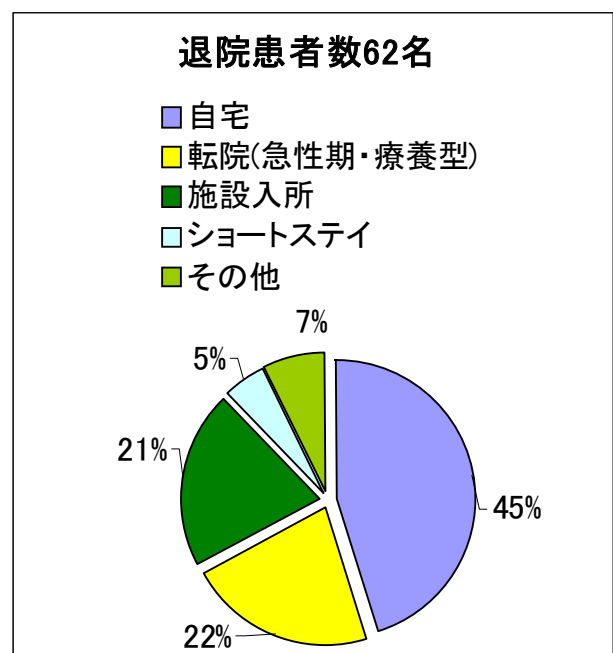
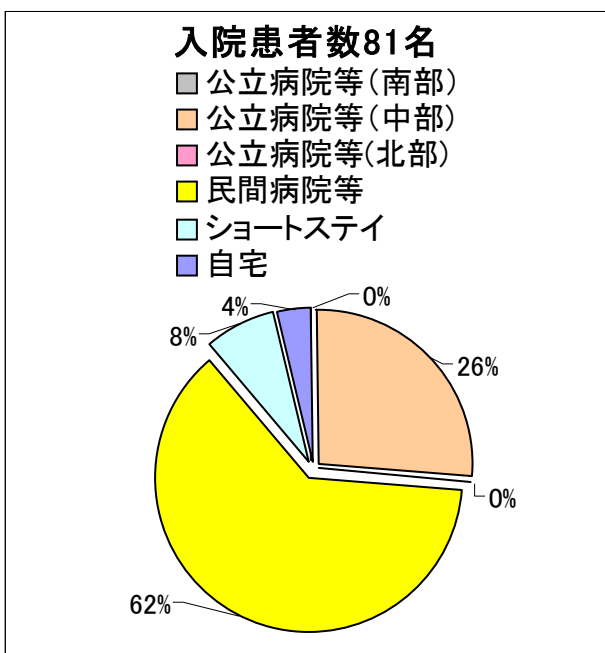
- 介護保険勉強会・ゆんたく会

日時 五月二十三日(土) 一四時～一五時三十分

場所 ちゅうざん病院 五階ホール



平成21年3月 入退院状況



ちゅうざん病院 〒904-2151 沖縄市松本6丁目2番地1号
 電話: 982-1346 FAX: 982-1347 「広報ちゅうざん」
 編集: 山田